

2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月11日

上場会社名 サカティンクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4633 URL <https://www.inx.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 上野 吉昭
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 木内 隆浩 TEL 06-6447-5824
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績（2026年1月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	68,121	6.3	4,173	8.2	4,796	13.3	3,314	7.7
2025年12月期第1四半期	64,059	8.3	3,857	△1.8	4,234	5.9	3,078	12.7

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 5,365百万円(－%) 2025年12月期第1四半期 △2,010百万円(－%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	67.65	—
2025年12月期第1四半期	62.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	228,933	128,423	52.7
2025年12月期	225,864	126,519	52.8

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 120,661百万円 2025年12月期 119,158百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	45.00	—	50.00	95.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	276,000	7.1	17,000	11.6	17,800	15.8	11,800	1.6	241.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年12月期 1 Q	54,172,361株	2025年12月期	54,172,361株
② 期末自己株式数	2026年12月期 1 Q	5,440,249株	2025年12月期	5,043,947株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年12月期 1 Q	48,991,543株	2025年12月期 1 Q	49,577,852株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 決算補足説明資料は、T D n e t で本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、総じて底堅い成長を維持したものの、中東情勢の一段の緊迫化によりエネルギー価格が高騰するなど、インフレ再燃への懸念が高まり、先行きについては不透明な状況となりました。

米国では、個人消費および企業投資を中心に底堅く推移しました。一方で、物価動向を受けた金融政策の先行きに対する不透明感が意識され、景気の減速を警戒する動きも見られました。欧州では、個人消費の持ち直しや政府支出により緩やかな回復基調を維持したものの、インフレ率の再上昇を受けて金融政策の緩和余地が限定されるなか、景気回復の足取りは鈍く推移しました。アジアでは、インド、インドネシア、ベトナムなど内需が比較的堅調な国がある一方、エネルギー輸入依存度の高さを背景に、エネルギー価格上昇が経常収支や物価動向に及ぼす影響が意識され、国・地域によって景況感に差が生じている状況となりました。日本では、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が緩やかに回復したものの、海外経済の先行き不透明感もあり、景気回復ペースは緩やかなものにとどまりました。

このような状況の中で、本年度は2030年を見据えた長期ビジョン『SAKATA INX VISION 2030』を実現させるための事業拡大・収益力強化フェーズである『中期経営計画2026 (CCC-II)』の最終年度にあたります。グループの事業拡大・収益力強化に向けて、ボタニカルインキシリーズなど環境配慮型製品を軸にサステナブルな製品の積極展開を推進するとともに、需要拡大が見込まれる機能性コーティング剤事業の競争力強化にも取り組みました。特にパッケージ分野では、人口増加と経済発展により中間層が拡大する成長地域での拡販を続けるとともに、グローバルアカウント向け戦略製品の拡充・拡販や地域連携による購買・生産・物流の効率化などグローバル連結経営を推進しました。機能性材料事業では、従来製品の拡販に加え、インクジェットインキにおいては衣食住をターゲットとした新市場への拡大や、画像表示材料においてもより高品質製品の拡販などに取り組みました。

売上高は、米州を中心に販売が好調に推移したことや機能性材料の販売も好調であったことに加え、円安による為替換算の影響を受けたことなどから、681億2千1百万円（前年同期比6.3%増加）となりました。

利益面では、米州で人件費や諸経費の増加が続いたものの、販売数量の増加による増収効果に加え、原材料価格が安定的に推移するなかで収益性の改善が続いたことなどから営業利益は41億7千3百万円（前年同期比8.2%増加）となりました。経常利益は47億9千6百万円（前年同期比13.3%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億1千4百万円（前年同期比7.7%増加）となりました。

(参考) USドルの期中平均為替レート

	第1四半期 連結会計期間
2026年12月期	156.86円
2025年12月期	152.60円

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に計上していた連結子会社の一部のセグメント区分を「機能性材料」に変更しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(単位：百万円)

	売上高					営業利益			
	前期	当期	増減額	増減率	(※)実質	前期	当期	増減額	増減率
印刷インキ・ 機材 (日本)	12,488	12,177	△310	△2.5%	△2.5%	274	564	289	105.6%
印刷インキ (アジア)	14,017	14,303	285	2.0%	△0.4%	1,602	1,659	57	3.6%
印刷インキ (米州)	25,579	27,664	2,085	8.2%	4.1%	1,549	1,287	△262	△16.9%
印刷インキ (欧州)	5,241	6,243	1,002	19.1%	5.4%	85	227	142	166.4%
機能性材料	6,522	7,518	996	15.3%	12.4%	606	607	1	0.2%
報告セグメント計	63,849	67,908	4,058	6.4%	2.8%	4,118	4,347	228	5.5%
その他	2,089	1,658	△430	△20.6%	△20.6%	121	52	△68	△56.7%
調整額	△1,880	△1,446	433	—	—	△383	△226	156	—
合計	64,059	68,121	4,061	6.3%	2.8%	3,857	4,173	316	8.2%

(※)実質増減率：海外連結子会社の為替換算の影響を除いた増減率

印刷インキ・機材 (日本)

日用品、食品、飲料などにおいて価格改定が相次ぐ状況には落ち着きが見えつつあるものの、家計の節約志向による消費マインドの低迷が続きました。パッケージ関連ではグラビアインキ、フレキソインキとも持ち直しの動きがみられ、販売は前年同期を上回りました。印刷情報関連では、デジタル化の影響による市場の構造的な縮小が進むなか、新聞インキは比較的堅調であったものの、収益性改善のためオフセットインキでは不採算品目の削減を進めた影響などから前年同期を下回りました。このような状況のなか、販売数量は減少したものの、販売価格の改定効果が寄与したことにより、印刷インキ全体では前年同期を上回りました。機材につきましては、印刷製版用材料では不採算品目の取り扱いを縮小している影響などにより前年同期を大きく下回りました。これらの結果、売上高は121億7千7百万円（前年同期比2.5%減少）となりました。

利益面では、不採算品目の削減や販売価格の改定効果などにより収益性が改善したことから、営業利益は5億6千4百万円（前年同期比105.6%増加）となりました。

印刷インキ (アジア)

域内の景況感に差が生じるなか、主力であるパッケージ関連のグラビアインキはインドやベトナムで販売が好調に推移しました。印刷情報関連では、インドにおいて拡販が進み販売が好調に推移しました。売上高は、販売単価の下落の影響はあったものの販売が堅調であったことに加え、為替換算の影響もあったことから、143億3百万円（前年同期比2.0%増加）となりました。

利益面では、原材料価格が安定的に推移していることなどから、営業利益は16億5千9百万円（前年同期比3.6%増加）となりました。

印刷インキ（米州）

主力のパッケージ関連では、北米で需要の緩やかな回復が続いていることに加え、ブラジルなど南米でも拡販が進んだことから、フレキソインキ及びグラビアインキの販売は好調に推移しました。メタルインキは環境負荷の観点からアルミ缶に対する需要拡大が続いているという背景に加え、中南米でもガラス瓶からアルミ缶への置き換えが進むなど順調に拡販が進んでおり、販売は堅調に推移しました。印刷情報関連であるオフセットインキは、市場の構造的な縮小はあるものの前年同期並みとなりました。売上高は、販売数量が増加したことや販売価格の改定効果に加え、為替換算の影響もあったことから、276億6千4百万円（前年同期比8.2%増加）となりました。

利益面では、販売数量が増加したことや販売価格の改定効果はあったものの、人件費や諸経費の増加が続いたことに加え、ブラジル新工場の償却費が発生したことなどから、営業利益は12億8千7百万円（前年同期比16.9%減少）となりました。

印刷インキ（欧州）

パッケージ関連は販売がやや低調であったものの、メタルインキでは主要顧客向けで販売が好調に推移しました。売上高は、販売が堅調であったことに加え為替換算の影響があったことなどから、62億4千3百万円（前年同期比19.1%増加）となりました。

利益面では、販売が堅調であったことや原材料価格が安定的に推移したことなどから、営業利益は2億2千7百万円（前年同期比166.4%増加）となりました。

機能性材料

インクジェットインキは販売が好調に推移し前年同期を上回りました。カラーフィルター用顔料分散液はパネルメーカーにおける稼働率の調整はあったものの販売は堅調に推移し前年同期を上回りました。トナーも販売は堅調に推移し前年同期を上回りました。これらの結果、売上高は75億1千8百万円（前年同期比15.3%増加）となりました。

利益面では、諸経費が増加したものの販売が増加したことなどから、営業利益は6億7百万円（前年同期比0.2%増加）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、棚卸資産は減少したものの、売上債権が増加したことや前期末に比べて為替が円安となった影響を受けたことにより前連結会計年度末比30億6千9百万円（1.4%）増加の2,289億3千3百万円となりました。

負債は、仕入債務が減少したものの、借入金が増加したことや為替換算の影響を受けたことなどから前連結会計年度末比11億6千6百万円（1.2%）増加の1,005億1千万円となりました。

純資産は、自己株式の取得を行ったものの、利益剰余金や為替換算調整勘定が増加したことなどから、前連結会計年度末比19億3百万円（1.5%）増加の1,284億2千3百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

中東情勢の緊迫化により世界経済の先行きに対する懸念が高まっております。特にホルムズ海峡の封鎖による原油およびその中間原材料であるナフサ価格の高騰や原材料の供給不安は当社の業績にも影響を及ぼすものであります。

原材料に関してはサプライチェーン上流での調達環境の悪化により供給制限や価格の大幅な上昇が発生しております。当社においては安全で高品質な製品の供給を最優先としたうえで、販売価格への転嫁や代替の原材料への切り替えなどの対応を進めてまいります。一方で、現時点では中東情勢およびその影響は非常に不透明な状況であることから、印刷インキや機能性材料の供給や需要にどの程度の影響があるのか、その見通しを示すことは困難であります。

このような前提のもとで当第1四半期連結累計期間の業績も踏まえた結果、2026年2月12日に公表しました通期の連結業績予想は、当初予想を据え置くことといたしました。なお、今後の情勢等を注視し修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,595	20,812
受取手形及び売掛金	62,526	64,504
商品及び製品	19,850	19,354
仕掛品	1,700	1,559
原材料及び貯蔵品	18,140	18,264
その他	5,074	4,713
貸倒引当金	△618	△627
流動資産合計	127,269	128,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,659	23,492
機械装置及び運搬具(純額)	12,383	13,696
土地	10,389	10,413
リース資産(純額)	156	170
建設仮勘定	5,115	3,821
その他(純額)	6,630	6,856
有形固定資産合計	57,334	58,449
無形固定資産		
のれん	1,315	1,282
その他	5,837	5,846
無形固定資産合計	7,152	7,129
投資その他の資産		
投資有価証券	30,173	30,908
その他	4,037	3,971
貸倒引当金	△104	△106
投資その他の資産合計	34,107	34,772
固定資産合計	98,594	100,352
資産合計	225,864	228,933

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,437	27,037
電子記録債務	11,833	7,666
短期借入金	7,098	11,173
1年内返済予定の長期借入金	2,903	3,661
1年内償還予定の社債	1,000	—
リース債務	905	957
未払費用	7,688	6,757
未払法人税等	1,133	1,093
賞与引当金	766	1,330
その他	3,509	3,712
流動負債合計	62,275	63,391
固定負債		
長期借入金	18,895	18,713
リース債務	2,797	2,928
繰延税金負債	5,994	5,901
退職給付に係る負債	4,704	4,688
資産除去債務	76	75
その他	4,600	4,810
固定負債合計	37,068	37,118
負債合計	99,344	100,510
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,472	7,472
資本剰余金	5,828	5,828
利益剰余金	91,590	92,442
自己株式	△5,912	△6,911
株主資本合計	98,979	98,831
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,582	1,630
繰延ヘッジ損益	1	11
為替換算調整勘定	18,203	19,795
退職給付に係る調整累計額	390	392
その他の包括利益累計額合計	20,178	21,830
非支配株主持分	7,361	7,761
純資産合計	126,519	128,423
負債純資産合計	225,864	228,933

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	64,059	68,121
売上原価	48,257	50,815
売上総利益	15,801	17,305
販売費及び一般管理費	11,944	13,132
営業利益	3,857	4,173
営業外収益		
受取利息	57	74
受取配当金	14	15
持分法による投資利益	346	530
為替差益	137	168
その他	130	116
営業外収益合計	686	905
営業外費用		
支払利息	240	219
その他	68	62
営業外費用合計	308	282
経常利益	4,234	4,796
特別利益		
投資有価証券売却益	0	14
特別利益合計	0	14
特別損失		
投資有価証券売却損	—	6
投資有価証券評価損	—	0
特別損失合計	—	6
税金等調整前四半期純利益	4,234	4,803
法人税、住民税及び事業税	1,112	1,236
法人税等調整額	△299	△79
法人税等合計	813	1,156
四半期純利益	3,421	3,647
非支配株主に帰属する四半期純利益	343	332
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,078	3,314

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	3,421	3,647
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△149	29
繰延ヘッジ損益	0	10
為替換算調整勘定	△3,951	1,300
退職給付に係る調整額	△27	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,305	372
その他の包括利益合計	△5,432	1,718
四半期包括利益	△2,010	5,365
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,976	4,966
非支配株主に係る四半期包括利益	△34	399

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	印刷 インキ・ 機材 (日本)	印刷 インキ (アジア)	印刷 インキ (米州)	印刷 インキ (欧州)	機能性 材料	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	12,244	13,974	25,358	5,057	6,522	63,157	901	64,059	—	64,059
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	12,244	13,974	25,358	5,057	6,522	63,157	901	64,059	—	64,059
セグメント間の内部 売上高又は振替高	243	43	220	183	—	691	1,188	1,880	△1,880	—
計	12,488	14,017	25,579	5,241	6,522	63,849	2,089	65,939	△1,880	64,059
セグメント利益	274	1,602	1,549	85	606	4,118	121	4,240	△383	3,857

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成品事業、ディスプレイサービス事業及びブランド保護ソリューション事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△383百万円には、セグメント間取引消去52百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△435百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2026年1月1日至2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	印刷 インキ・ 機材 (日本)	印刷 インキ (アジア)	印刷 インキ (米州)	印刷 インキ (欧州)	機能性 材料	計				
売上高										
顧客との契約から生じる収益	11,937	14,283	27,466	6,057	7,498	67,244	876	68,121	—	68,121
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,937	14,283	27,466	6,057	7,498	67,244	876	68,121	—	68,121
セグメント間の内部 売上高又は振替高	240	19	198	186	19	664	782	1,446	△1,446	—
計	12,177	14,303	27,664	6,243	7,518	67,908	1,658	69,567	△1,446	68,121
セグメント利益	564	1,659	1,287	227	607	4,347	52	4,399	△226	4,173

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成品事業、ディスプレイサービス事業及びブランド保護ソリューション事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△226百万円には、セグメント間取引消去103百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△329百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の管理区分の一部見直しに伴い、従来「その他」に計上していた連結子会社の一部のセグメント区分を「機能性材料」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年2月12日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結会計期間末までに累計396,300株の自己株式の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が999百万円増加いたしました。

なお、当第1四半期連結会計期間末において、自己株式が6,911百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれんの償却額は、次の通りであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	1,514	1,600
のれんの償却額	57	65